

地域のみな様と、私たちがむすぶ広報誌



公立南丹病院

Nantan General Hospital

Vol.27

2015.10
Autumn
秋号



いよいよ放射線治療が始まります

Contents

- リニアック開設に向けて①
- 平成27年度 地域医療教育推進事業②
- 第17回 公立南丹病院学術集会③
- 肝臓内科の診療が始まりました③
- 診療科紹介ー泌尿器科④
- 医療安全管理室⑤
- 健診センター⑤
- 公立南丹看護専門学校⑥
- 第1回京都丹波トライアスロン大会 in 南丹⑦
選手として参加して
救護班として参加して
- 産後の「お腹が減る!」という声にお応えして⑧
- 第69回京都南丹市花火大会を終えて⑧
- 近隣の連携医療機関の先生方⑨
栗山内科クリニック
富井内科医院
- 平成27年度「ふれあい看護体験」を終えて⑩
- 2015年度「世界糖尿病デーイベント」
開催のお知らせ⑩
- 「公立南丹病院健康フォーラム」
開催のお知らせ⑩
- 公立南丹看護専門学校 平成28年度学生募集
■ 看護師・助産師募集
■ 編集後記

臨床研修指定病院 地域がん診療病院 救急告示病院
日本医療機能評価機構認定病院 へき地医療拠点病院
第二種感染症指定医療機関 地域周産期母子医療センター
京都府地域リハビリテーション支援センター エイズ拠点病院
京都府難病医療協力病院 地域災害医療センター
DMAT指定医療機関 認知症疾患医療センター

公立南丹病院

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野 25 番地
TEL 0771-42-2510 (代) FAX 0771-42-2096
<http://www.nantanhosp.or.jp>



リニアック開設に向けて

院長 ^{たつみ}辰巳 ^{てつや}哲也

今年の夏は例年に比較して、本当に蒸し暑く厳しい夏でした。しかも9月に入ると、秋雨前線や台風の影響で局地的な大雨が日本各地に降りました。中でも北関東や東北を中心に記録的な豪雨が降り、鬼怒川の堤防が決壊し、茨城県常総市などの市街地に水が流れ込み甚大な被害をもたらしました。警察、消防や自衛隊を中心に、孤立した住民の方々への懸命な救出活動が続きましたが、死傷者も出るほどの豪雨災害でありました。災害に遭われた方々には、謹んで心よりお見舞いを申し上げます。近頃の日本の気候は地球温暖化の影響なのかどうかはわかりませんが、あまりに激しい大雨が局地的に降ることが多いようです。気候変動による災害は、いつ我々の身近で起きるかもしれません。病院の危機管理の一つとして、今後とも十分な備えと訓練をしていきたいと考えています。皆様方には季節の変化が激しい折、ご体調にくれぐれも留意されてご活躍頂くことを願っております。



さて10月にはいよいよ公立南丹病院で放射線治療施設が開設します。放射線治療とは、リニアックと呼ばれる装置で体の外側から放射線を照射して、がん等の病気の治療をしたり痛みの緩和をします。当院は京都府「地域がん診療病院」として地域のがん医療の水準向上に貢献するため、南丹医療圏では初となる放射線治療の整備を進め、高い性能、操作性、安全性を備えた最新式の医療用リニアックを導入しました。放射線治療とは放射線を照射することで病気の細胞（がん細胞）を死滅させる治療方法です。当院の放射線治療は、3種類のX線（4MV、6MV、10MV）と5種類の電子線エネルギーが選択できるため、幅広いがん患者さんに対応することが可能です。そしてCTシミュレーターと高い治療精度を実現するために必要となる3次元治療計

画装置（MONACO）、放射線治療情報の管理システム（MOSAIQ）も同時に導入しました。

放射線治療は正常組織を残して治療できるため、臓器の形や働きを温存できる利点があります。一回の治療時間は比較的短く、治療そのものによる痛みは基本的にはありません。また、体への侵襲が少ないため、手術が難しい高齢者の方の治療が可能です。このように放射線治療の特徴は「低侵襲で機能の温存が高い」ということです。放射線治療は技術の進歩や装置の高精度化により、頭頸部がんをはじめ、乳がん、肺がん、食道がん、前立腺がんなどの根治的放射線治療への適応が急速に増えてきました。手術との組み合わせや化学療法との併用などにより、放射線治療の効果はさらに高くなってきています。近年、日本では、高齢化や食文化の変化により、がん患者数が増加しています。超高齢化社会を控え、二人に一人ががんになるとも言われており、放射線治療を受けられる患者さんの数も増加の一途をたどっています。

治療には京都府立医科大学放射線科学教室に御援助を頂き、毎週、放射線治療専門医による診察を行います。安全性については放射線技師・物理士をはじめ多方面から万全を期しています。10月3日に開所式・内覧会を執り行わせていただき、10月5日より開設します。がん治療の3本柱であるといわれてきた手術療法・化学療法・放射線治療が揃うことで、地域の中であらうにお悩みの方々に少しでも当院がご貢献できることを心から期待しています。ご質問やご相談のある方はどうぞ遠慮なく当院へお問い合わせください。どうか地域でがんを患っている方々を当院へのご紹介を賜り、地域完結型医療が推進できますよう、皆様のご支援を心からお願い致します。

朝夕の通勤時に、ふと感じる風は少し涼しさを帯びてきました。子供の頃、私をとっても可愛がってくれた亡き祖母に教えられた和歌があります。「秋来ぬと目にはさやかに見えねども 風の音にぞおどろかれぬる」少し暑さが和らぐ頃、私は古今和歌集で詠まれている藤原敏行のこの歌を、祖母のやさしさとともに感謝の気持ちでいつも思い出します。また通勤の際に車窓からみる近隣の水田の稲も無事に育ち黄金色に輝く稲穂に成長してきました。この地域がいつまでも日本の四季折々の良き風景を残しながら、地域の皆様の健康増進にお役に立てるように頑張っていきたいと思っておりますので、どうか今後とも温かいご支援、ご協力を賜りますように、心からお願い申し上げます。

病院の理念

公立南丹病院は、この地域の住民の生命健康を守る最終拠点病院である。このことを病院職員は深く認識し、患者さんの権利を守り、患者さん中心の医療を行い、患者さんから愛され信頼される病院をめざす。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人匿名の保護を受ける権利
5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
6. 説明を理解するまで問う責務
7. 病院での規則に従う責務

平成27年度 地域医療教育推進事業

院長 たつみ てつや
辰巳 哲也

9月の始めには毎年恒例となりました京都府地域医療推進教育事業(医大GP)が行われました。今年も京都府立医科大学医学部5回生の学生18名、看護学科4回生の学生5名の方々が、現場の実習をすることで地域医療の姿を座学から、身近な存在として体感してくれたと思います。今年も学生達は真面目に京都府北部の地域医療の現場から、地域医療の魅力や地域医療が抱える問題点に目を向けてくれました。このGPを支えて下さったスタッフの皆様には厚く感謝申し上げます。特に御講演を賜りました亀岡医師会の加藤医師会長、船井医師会の山田医師会長、花の木医療福祉センターの寺田先生、訪問ステーションこころの中尾先生をはじめ、御協力下さいました開業医の先生方には、日常臨床のお忙しい時間を割いて頂き、温かく学生の指導を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。GP修了式では初日ではみられなかった学生達の明るく充実感に満ちた積極的な笑顔を見て、スタッフともども今年も無事に教育事業の責任が果たせたように感じました。若い世代のエネルギーが公立南丹病院をはじめ、この医療圏の地域医療を支える原動力になってくれることを心から期待しています。



京都府立医科大学医学部医学科5回生 きたむら よしひろ
北村 圭広

我々は今回の地域実習にて、公立南丹病院の役割、病院と地域との連携、地域の開業医、花の木医療福祉センター、DMATなど多くのことについて実習させていただきました。

特に、今まで地域医療に対して漠然と持っていたイメージが、明確なものとなったことは間違いありません。我々の身近にある医療であると気づき、地域ごとに必要とされ、実施されているものだと考えました。一方で医療を提供するための資源が不足している地域があるという現状を目の当たりにしました。有意義な研修をありがとうございました。



京都府立医科大学医学部看護学4回生 わたぬき ゆみこ
綿貫 裕美子

座学での地域医療に加えて、実際に実習を通して学ぶことで、地域医療についての具体的なイメージを持つことができました。南丹医療圏は範囲も広く、高齢化がさらに進んでいくといわれている中で、公立南丹病院はその地域の中心としてニーズに合わせた医療をされていました。地域の中で医療が完結できる地域医療の取り組みを間近に感じることができました。電気、水、食料といった備蓄をし、災害時に対応できるようになっていることを学びました。実習中はさまざまな職種の方々にお話を聞く機会があり、南丹医療圏の高度医療、地域医療を担っていくために連携されている現場を見ることができました。この実習で得た経験を活かし、医療人としてさらに頑張っていきたいと思えます。

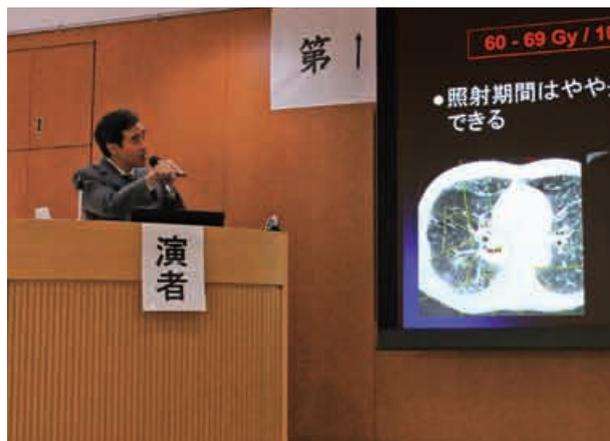


第17回 公立南丹病院学術集会

公立南丹病院学術集会実行委員会委員長 ばん ゆりこ 伴 由利子

さる平成27年8月22日に、当院第2病棟5階の講堂にて第17回公立南丹病院学術集会を開催しました。今年も、院内より医師、薬剤師、理学療法士、診療放射線技師、管理栄養士、看護師、事務局と多彩な部門からの発表がありました。いずれの発表も、発表前の準備の努力を感じさせる充実したすばらしいものでした。

また特別講演には京都府立医科大学放射線科准教授の山崎秀哉先生に「高精度放射線治療～二次元治療計画から三次元治療計画へ～」の演題でご講演いただきました。放射線治療の長所や、CTシミュレーターを用いた三次元治療計画により放射線治療の可能性が大きく広がったことなどをお話いただきました。当院でも、この秋から放射線治療が開始されますので、参加した職員一同にとって良い勉強になりました。



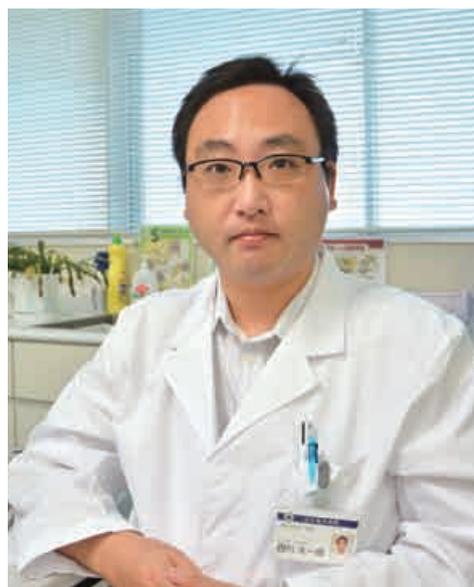
肝臓内科の診療が始まりました

肝臓内科 にしかわ たいちろう 西川 太一郎

今年4月より新たに開設された肝臓内科外来（毎週金曜日午後）を担当しております西川です。最近増加している肥満に伴う肝疾患（非アルコール性脂肪性肝炎）や原発性胆汁性肝硬変・自己免疫性肝炎、重症肝炎、食道静脈瘤など肝臓病全般の診療を幅広く行っておりますが、その中でも日本国内に200万人以上の感染者が推定されているB型・C型肝炎ウイルスによる慢性肝疾患の治療を精力的に行っております。

肝臓は沈黙の臓器と呼ばれ、末期になるまで症状がでることが少なく、これらのウイルス性慢性肝疾患が知らない間に進行し、肝硬変や肝がんに至ることも珍しくありません。これまではインターフェロンなどの治療が中心でしたが、高齢者の方では副作用の問題から治療をできる方が一部に限られていました。しかし最近では、ウイルスの増殖を抑えることのできる内服薬を用いる方法が主流となり、より安全で有効な治療になっております。健康診断などで偶然に肝炎ウイルスが存在していることが分かったにもかかわらず、放置している方は意外にも多いのが現状です。早い段階で肝臓の病状を評価し、治療を受ける必要があるかどうか適切な判断を行うことが病気を予防していくうえで非常に重要です。

肝臓内科専門医として市民の皆様に最適な肝疾患診療を提供できるよう、地域の医療機関とも円滑に連携し励んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



泌尿器科

Urology

泌尿器科部長 いわた つよし 岩田 健

泌尿器科の診療は常勤医：岩田 健、宮下雅重の2人体制で行っています。昨年10月までは常勤医3人体制で行っておりましたので、現在の人手不足を補うために京都府立医大から非常勤医師に週3回来ていただき、診療に従事していただいております。他の診療科と同様、高齢化社会に伴い多くの患者さんを診療しており、忙しい毎日を過ごしております。

泌尿器科の疾患は前立腺肥大症や過活動膀胱を始めとする排尿障害、また腎がん、腎盂尿管がん、膀胱がん、前立腺がん、精巣がんなどの泌尿器がん、尿路結石症、尿路感染症、小児泌尿器、男性機能障害などに分類されますが、可能な限り当院で対応し、より専門的な加療が必要な場合は京都府立医大などに紹介させていただきます。

月、水、金は外来メイン、火、木は手術メインとしていたのですが、手術症例の増加に伴い、最近は月、水、金の午後も手術を行うようにしております。

平成26年の主な手術件数は腎がんに対して開腹腎摘2例、腹腔鏡下腎摘5例、開腹腎部分切除術3例でした。腎盂尿管がんに対しては開腹腎尿管全摘7例、腹腔鏡下腎尿管全摘3例、膀胱がんに対しては経尿道的膀胱腫瘍切除術35例、膀胱全摘除術9例でした。さらに、前立腺がんに対する前立腺全摘除術2例、前立腺肥大症に対する経尿道的尿管碎石術14例でした。昨年まで外来検査として局所麻酔で施行していた前立腺生検（平成26年は69例施行）については、患者さんの苦痛を軽減するように入院で脊椎麻酔下に施行しています。

外来は毎日開設しており、月曜日の午前は体外衝撃波結石破碎術（ESWL）（平成26年は20例施行）を行っております。火、木は手術日のため、1診で20～30人の患



外来スタッフと共に

者さんを診療します。月、水、金は2診で60～80人の患者さんが来院され、あわただしい外来となります。昼ご飯を食べずに、空腹と闘いながら外来診療をし続けることもしばしばありますが、少し痩せてダイエットになったのは自分にとってメリットでした。

月並みですが、泌尿器科のモットーは「患者さんのための医療」です。病状はもちろん個人個人で異なりますし、その人の考え方、病気の受け止め方もそれぞれ異なるはずで、そのような方々に対してどのような治療が最適か、という課題に対して真摯に向き合い、粉骨砕身、南丹地域の医療に貢献していく所存であります。もうひとつのモットーは「仕事は明るく、楽しく」です。人の命を預かる仕事であるが故に、ついつい殺伐とした雰囲気になってしまいがちですが、堅苦しい雰囲気より楽しい環境で仕事をするほうが心に余裕が生まれ、結局よりよい医療を患者さんに提供できるものと思っています。各部門の方々には常日頃から大変お世話になっておりますが、今後とも何卒ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

医療安全管理室

医療安全管理室長 かわかつ ともこ 川勝 智子



「医療安全管理室って何・・・？」平成27年4月より、医療安全管理室・院内感染対策室が設置されました。医療安全の基本的な考えは、患者さんが安心・安全な医療を受けられる環境を整え、良質な医療を提供し、病院全体として患者さんに実害を及ぼさない仕組みを構築することとなっています。病院全体の医療安全を推進し、安心・安全な医療を提供することをコンセプトに他職種との共同により安全活動を行うところです。

“安全は一人ひとりの自覚から”というように、一人ひとりに危機意識がなければ、思い込み・確認不足・無意識な行動などで間違いが発生するものです。

医療事故を防止するためにも、効果的な安全教育や研修会の実施、事故分析や具体的対策の検討、医療安全ニュースの発行、院内ラウンドなどの活動を行い、患者さんの安全および職員の安全を確立していきたいと思っております。

不安なこと、どのように対応したらいいのか相談したいこと、事故防止のための提案などありましたら、気楽に声をかけて下さい。

健診センター

血液内科部長・健診センター医長 おかもと あきお 岡本 昭夫

地域の皆様には、日頃当健診センターをご利用頂き心より御礼申し上げます。お陰さまで毎年たくさんの方々にご利用頂き、せっかくお問い合わせ頂いても、予約が数ヶ月先まで取れない時期もあり、ご不便をおかけしておりますことをお詫び申し上げます。

さて、これからの日本は、さらに高齢化が進み、医療費の削減がより厳しく求められて行くでしょう。そのために早期に病気の兆しを見つけ、予防や治療に結びつけることが、健康のためには勿論のこと、経済的にもお得な選択肢になると思われれます。

特に日本人の主な死因である、がん、心疾患、脳血管疾患の予防が重要です。心疾患と脳血管疾患は、生活習慣病（高血圧症、糖尿病、脂質異常症など）を基礎に発症することが多いため、最終的には、がんと生活習慣病のコントロールが、健康と長寿に繋がるのではないのでしょうか。

健診センターの主な役割は、①がんの早期発見、②生活習慣病の予防に寄与することと考えております。がんは、早期の発見が治療につながる時代になってきております。症状が出る前に健診で偶然発見されたがんは、より治療成績も良く、治療自体もより負担の少ない方法を選べるチャンスが増えます。がんの疑いを指摘された場合は、是非とも精密検査を受けて下さい。

生活習慣病に関しては、ほとんど症状を伴わないことや、すぐに命に関わる可能性が低いいためか、検査で指摘されても放置され、年々悪くなる方も少なくありません。生活習慣病を指摘された方々は、是非かかりつけ医をお持ちになり、定期的な検査を受けて悪化を防ぐようにして下さい。

皆様の健康と長寿のために、これからも健診センターを有意義にご利用いただきますようお願い申し上げます。



精神看護学実習での学び (もみじヶ丘病院)

3年生 よしかわ 吉川 あゆみ

福知山市のもみじヶ丘病院で精神看護学実習をさせていただきました。精神科というと、暗く、怖いイメージが私の中にはありました。初めは、患者さんとコミュニケーションを取ろうとして、声をかけても無視されてしまうことが多く、何をすればよいか、どう患者さんに接すればよいかわからず、そばで見ているだけでした。しかし、指導者に「こちらから壁を作るのではなく、一人の人としての関わりを大切にしてほしい」と指導を頂きました。その後は、余裕を持って関わり、興味のある話題を尋ねたりし、良好な関係を作るよう頑張りました。



実習2週目、学生が企画したリクレーションでは、

私の働きかけに対して、喜んだり、笑ってくださったりと患者さんから反応が返ってきました。

患者さんと関わるとはどういうことなのか、何のために情報収集やコミュニケーションが必要かなど、この実習を通してわかったように感じました。また、患者さんと関わることの難しさや楽しさを知ることができました。この体験は、看護学生としての自信に繋がったと思います。

受け持たせていただいた患者さん、ご指導頂いた指導者の皆さん、本当にありがとうございました。今回の実習で学んだことを今後の学習に活かしていきたいと思います。他にも精神看護学実習は、花ノ木医療福祉センターでも実習させていただいています。

8月7日、公立南丹看護専門学校のオープンキャンパスを実施し、

全国から72名の参加がありました。

オープンキャンパスを終えて

2年生 ふくだ たかし 副田 貴士

来校していただいた人たちの表情はみんな真剣で、少しでも学校のことを知ろうとしている姿が印象的でした。私たちが在校生は、看護学校で学んでいることを伝えるために試行錯誤し、協力して一生懸命取り組みました。この学校に入りたいという声が聞こえてとても嬉しく思いました。終了後は、チームで達成感を味わえたと思います。オープンキャンパスを通して高校生や社会人の方々に少しでも学校のことが伝わり、看護のことにもっと興味を持ってもらえたらと思います。



第1回京都丹波トライアスロン大会 in 南丹

選手として参加して

臨床検査科臨床検査技師 くぼた ともこ 久保田 朋子

八木町で初のトライアスロン大会。美しい山々と水田の景色が広がる、おばあちゃんの家近くを自転車で走る。出場するなら第1回大会に参加したい。でも泳げない、無理だと思った。91歳のおばあちゃんが骨折してリハビリを頑張る姿や患者さんのリハビリを頑張る姿を見て、私は頑張っているのかな?後輩に「しっかり頑張って」と言うけど、私はどうかな?この1年は傷ついたり、傷つけたりして、いろんな方に心配やご迷惑をかけた。強くなりたい。自分を変えたい。その思いから挑戦することを決めた。でも…泳げない。あと1ヶ月。スイミング教室にほぼ毎日通った。時間はもちろん足りず、750mを泳ぎ切ることはとてもできない。足の着くところは走ってもいい、完走ができなくても挑戦しよう。

大会当日、川が冷たくてスイムは半分に変更になったが、増水で足は全く着かない、リタイヤしかない。しかし、救護の方から「今日は半分なので充分時間はあります」と励まされて、できるところまでは…。でも恐怖でクロールは出来なかった、ブイにしがみついて背浮きで川を流れた。「半分です」「あと少し」と励まされ続けて、なんとか川岸にたどり着いた。その後、自転車20km、ラン5km、ブービーだったけれど完走し、ゴールすることができた。

私が最後まで頑張れたのは、救護の方の励まし、沿道の八木町の方々や元気に歩けるようになったおばあちゃんの応援、職場の先輩や医療スタッフの病院の先生、看護師さんの応援とサポートのおかげです。そして、励まし支えてくれた家族や友人、関係者の方々と天候に恵まれての完走でした。多くの方々に対して感謝の気持ちでいっぱいですが、本当にありがとうございました。

このトライアスロン大会に出場して、たくさんの励ましやサポートをいただき、その大切さとありがたみを身にしみて感じる事ができました。励ますことやサポートをする私の仕事の大切さ、患者さんからの「ありがとう」の言葉に込められている思いの強さと重さ、私は素敵な仕事をしていることにも改めて気づくことができました。

仕事では準備や知識が重要だといつも言っているのに、命の危険の可能性があるトライアスロンに準備不足、知識不足の無謀なチャレンジをして、心配とご迷惑をおかけしたことを反省しています。しかし、第1回京都丹波トライアスロン大会は私に素晴らしい経験と、多くのことを学ぶチャンスを与えてくれました。完走できてうれしい。挑戦してよかった。そして、あきらめなくてよかった。



救護班として参加して

救急看護認定看護師 まえだ えりこ 前田 絵理子

平成27年7月5日(日)に、第1回京都丹波トライアスロン大会in南丹が、大堰川緑地公園および周辺地域で開催されました。水温が低かったためスイムのみ距離を半分に短縮されましたが、京都では20年ぶりの新たな大会となり、233名が出走し、224名が完走されました。トライアスロンは完走できたことをみんなで喜ぶ文化のスポーツで、実際参加されている方々も心から大会を楽しんでおられる印象を受け、このような大会が地元で行われたことをうれしく思います。その陰には水分摂取の仕方などの事前の指導や当日の救護など、安全に完走するために選手を支える運営スタッフの関わりを知り、私自身も多くの学びと出会いの機会をいただきました。今後も地域の基幹病院の職員として、地域で催されるイベントが安全に実施できるお手伝いできればと思います。



産後の「お腹が減る!」という声にお応えして

栄養科管理栄養士 もりやま しゅん 森山 瞬

当院本館4階には産婦人科病棟があり、毎日の様に小さな命が生まれ妊産婦さんは勿論のこと、ご家族様の笑顔に囲まれ病棟スタッフに元気を頂いております。

栄養科では産後に「夜間の授乳後にお腹が減る!」という声を伺い、委託給食会社さん、病棟看護師さん協力のもと午後8:00頃に夜食のご提供をさせてもらっております。内容は日替わりで自慢の10種類です。ベッドサイドに伺いますと『病院で夜食ができるなんて!』『毎日楽しみにしています』などの好評のお声を頂いております。院内栄養食事規約(栄養量のルールブック)があり、少々、窮屈な所もありますが今後も栄養治療を通じて笑顔があふれる患者サービスに努めてまいります。



第69回京都南丹市花火大会を終えて

南丹市花火大会実行委員会事務局 さいとう たけし 斉藤 武志

平成27年8月14日、第69回京都南丹市花火大会が開催されました。まずは大きな事故もなく無事終えることができたことを、ご協力ご支援いただきました関係者の皆様方に厚く御礼し、また感謝申し上げます。

戦後間もない昭和22年、戦没者の慰霊と町の人々の慰めにと20発の花火を打ち上げたのがこの大会の始まりだそうです。今回で69回目を迎えたわけですが今まで一度も中断されることなくつづけられてきました。昨年の大会より「やぎの花火大会」から「南丹市花火大会」と名称を変更し、特に観覧客の安全面に配慮して運営を計画しました。昨年の大会での反省点で有料と無料の区切りの意味が分かりにくいという声が多く大堰川右岸(西側)をすべて有料会場としました。屋台村も安全面を考慮し関係機関の指導もあり東側の運動公園での一ヶ所で営業していただき、昨年は川の西側の町筋には数店の屋台が出店しておりましたが、地元住民様の協力も得て、屋台の出店はありませんでした。お祭りの風情ということ考えると駅から会場まで屋台が並ぶとなかなかの情緒があるのですが、安全面ということ考えると致し方ないことなのかなと思います。

来場客数は8万人と公式発表しておりますが、昨年度に比べると有料観覧席はまだ余裕がありましたし、無料会場やその他のところも、少なかったように感じます。安全面ということを考えて良かったのではないかと思います。有料会場の場所取りも15時からということも皆様守って下さり、会場内のゴミが昨年以上に少なく、例年ですと町の中にもゴミの山があったのですが今年はありませんでした。年々、お客様のマナーが良くなってきているように感じます。

大会当日は天候もよく、大変恵まれた条件での大会となりすばらしいものとなりました。この花火大会の魅力は何といっても、観覧席が近くて花火を視覚からだけではなく、音も感じられまた、川面に映る花火の光、このロケーションは他では味わえないものがあり、自信をもって自慢できる花火大会ではないかと思います。

今回も皆様からたくさんのご意見、ご要望をお聞きました。私自身も昨年に引き続き2回目の実行委員を務めさせていただき、大変貴重な経験をさせていただいております。昨年の反省をふまえ今回の運営を計画いたしました。やはり何万人という規模のお祭りを運営するのはなかなか大変なものがあります。

また次回は関係機関、地元の皆様、南丹市外からの来場客、皆様方のご意見を参考にし、より多くの皆様が楽しんでいただけるよう、より良い花火大会にしたいと思います。



近隣の連携医療機関の先生方

栗山内科クリニック 院長 栗山 卓弥



当院も早いもので開院以来5年半余りが過ぎました。あっという間の月日であった様に感じられ、皆様の力をお借りし、御迷惑をおかけしながら日々の診療にあたっているとあります。

循環器内科医として種々の検査や治療に携わらせていただきました病院勤務医時代とは異なり、かかりつけ医として内科一般領域の診療も幅広く行う必要があります。公立南丹病院は地域の拠点病院として診療実績も豊富であり、大変頼りにさせていただいております。診療科目、スタッフ共に充実されておられ、いつも迅速かつ丁寧な対応を施行いただき、この場をお借りして深謝いたします。

予防医学の必要性が重要視される一方、医療に関する進歩は目を見張るものがあり、各種疾患に対する取り組みが変化して来ている時代であると言えます。

又高齢化社会を迎え、病診連携がより一層大切なものとなって来ています。今日までにいただきました貴重な経験や助言を生かし、これからも微力ながらも地域医療に貢献出来ましたら幸いです。

この度はお世話になっております公立南丹病院より広報誌への原稿依頼をいただき、大変ありがたく思っております。今秋には放射線治療も始められるとのことにて、貴院のより一層の御発展を祈念いたします。今後とも何卒御高配の程よろしくお願い申し上げます。



富井内科医院 院長 富井 隆



15年間園部町内の病院に勤務していましたが、縁あって同町横田で平成19年10月に開院いたしました。平素より南丹病院の先生方には紹介患者さんの検査・診察をお願いさせていただくのみならず、CT・MRI等の画像診断も依頼させていただきありがとうございます。また、紹介の有無にかかわらず時間外・救急での受診に対応していただき、重ねて感謝しております。

当院の紹介をさせていただきます。昭和60年に京都府立医大を卒業し第一内科に入局しましたが、当時の近藤教授より「スペシャリストになる前にジェネラリストでありなさい」とのお言葉をいただき、これを現在でも信念として診療を行っています。内科全般に対しては基本的な事項を見直すとともに最新の情報を得るよう努めています。専門の消化器内科領域については、上部消化管内視鏡と腹部超音波で可能な限りは当院で診断できるよう努めています。また心臓超音波で弁膜症等の心臓疾患の把握、頸動脈超音波で動脈硬化性病変の把握も行っています。責任を持って診療に当たることのできない領域・疾患に関しては、積極的に南丹病院や近隣の専門医にお願いし、患者さんの不利益にならないよう心がけています。

開業して約8年たちましたが、その間に南丹病院が変わったと実感した点を挙げてみます。時間外等様々な状況においてスムーズに患者さんを診ていただけるようになりました。情報提供が詳細で適時いただけるようになり、病状の把握がよりいっそう可能となりました。地区の講演会や医師会での会合で勤務医の先生方と交流を持てるようになり、専門医と開業医の間で希望や質問を直接お会いして話をするのでお互いの距離が短くなりました。

梶田前院長、辰巳新院長ならびに職員の皆様の御努力の成果を実感しつつ、南丹病院のさらなる発展を期待しております。今後どうぞよろしくお願い申し上げます。



平成27年度「ふれあい看護体験」を終えて

看護師長 ^{まつおか みよこ} 松岡 美代子

京都府看護協会主催の「ふれあい看護体験」を、7月31日に実施しました。今年度は高校1年生2名・3年生1名の参加があり、小児科病棟と整形外科病棟に分かれ、それぞれが指導の看護師と色々な看護ケアや患者さんとのふれあいを経験しました。

お昼は職員食堂で、担当スタッフと一緒に昼食をし、午後からは院内の案内やヘリポートにもあがり、普段見ることのできない病院の中を見学してもらいました。体験の3名からは、「実際に患者さんに接して、緊張したが楽しかった」や「看護師を目指していきます」などの嬉しい感想を聞くことが出来ました。

当院では、インターシップ制度により随時看護体験や病院内見学をしていただくことができます。看護師という職業に興味をお持ちの方や、就職を考えている方、当院看護部にぜひご連絡ください。



2015年度 「世界糖尿病デーイベント」 開催のお知らせ

日時：平成27年11月9日(月) 9時～12時

場所：本館1階中央受付前および第1病棟
エレベーター前(1階・3階連絡橋側)
3ヶ所

内容：血糖測定、神経障害や足病変チェック、運動療法のいろいろ、食事に関すること、糖尿病に関するDVD上映ほか。

管理栄養士、薬剤師、看護師など、それぞれのスタッフが説明させていただきます。今年度は、管理栄養士の実習生も参加予定です。外来やお見舞いのついでに、イベント会場にお立ち寄りください。

スタッフ一同、皆様のお越しをお待ちしております。(糖尿病委員会)

「公立南丹病院健康フォーラム」 開催のお知らせ

入場
無料

日時：平成27年12月19日(土) 13:30～17:00

場所：ガレリアかめおか2階 大広間

内容： **第1部** 公立南丹病院の紹介(DVD放映)

第2部 明日に生きる健康術

第3部 特別講演「健康長寿の秘訣」



〈講師〉

吉川 敏一先生

〔京都府立医科大学学長/
医学博士〕

催し物 健康相談、栄養相談、職員紹介、病院の取り組み、メディカルチェック(血圧、視力、動脈硬化度などの測定、肥満度チェック、その他の各種測定)

公立南丹看護専門学校 平成28年度学生募集

【推薦入試】

1. 募集人員：10～20名程度
2. 願書受付：平成27年11月5日(木)～
11月11日(水) (期間内必着)
3. 試験日時・科目

試験日	科目	時間
平成27年 11月18日(水)	国語総合 (古文漢文を除く)	9:30～10:30
	面接	10:45～

【一般入試】

1. 募集人員：40名(推薦入学者を含む)
2. 願書受付：平成27年12月3日(木)～
12月15日(火) (期間内必着)
3. 試験日時・科目

試験日	科目	時間
平成28年 1月7日(木)	国語総合 (古文漢文を除く)	9:30～10:30
	英語I・II 数学I・A	10:45～11:45 13:00～14:00
	面接	9:30～
平成28年 1月8日(金)	面接	9:30～

詳しくは公立南丹看護専門学校ホームページ
<http://www.nantan-kango.ac.jp> をご覧ください。



看護師・助産師募集 (正職員・臨時職員)

正職員・臨時職員共に院内保育所の利用可。
 寮(正職員のみ)利用可(月額10,480円)
 〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野 25 番地
 公立南丹病院 総務課人事係
 TEL 0771-42-2510(代)まで

詳しくは公立南丹病院ホームページをご覧ください。 <http://www.nantanhosp.or.jp>

編集後記

暑い夏が過ぎ、実りの秋を迎えています。気候が穏やかなこの時期に、新しいことを始めようと思われている方も多いのではないのでしょうか。

公立南丹病院も10月から「放射線治療」という新しい分野に踏み出すこととなりました。京都府中部地域で初めての施設であり、がんに対する治療から痛みの緩和まで、様々な目的で使用することができます。

まだ始まったばかりですが、努力を惜しまず、地域になくてはならない施設に成長できるようがんばっていきます。(広報委員 Y.N.)

